

平成30年11月16日
(2018年)

保護者の皆さま

吹田市立岸部第二小学校
校長 矢田俊也

平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数、理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

国語

●概要

◎国語A（「知識」に関する問題）

児童の平均正答率は、全国値をやや下回る。

◎国語B（「知識の活用」に関する問題）

児童の平均正答率は、全国値を下回る。

●各領域における成果と課題

「話すこと・聞くこと」

- ◇「計画的に話し合うために、司会の役割について捉える」は、全国値を上回る。
- ◆「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見を比べるなどして考えをまとめる」は、課題がある。

「書くこと」

- ◇「自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える」は、全国値を上回る。
- ◆「目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書く」は、課題がある。

「読むこと」

- ◇「目的に応じて、必要な情報を捉える」は、全国値を上回る。
- ◆「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが
ら読む」は、課題がある。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

- ◇「日常生活で使われている慣用語の意味を理解し、使う」は、全国値を上
回る。
- ◆「漢字を文の中で正しく使う」は、課題がある。

●国語における成果と今後の指導改善点について

A問題「知識」では、全国値をやや下回り、B問題「知識の活用」では、「記述式」の項目に課題があり、全国値を下回った。

A・B問題ともに、選択式の問題については多くの問題で全国値を上回る正答率となっていることから、基礎・基本の力が定着してきていると考えられます。しかし、基礎・基本を活用するB問題「知識の活用」において、理由や文のつながりを考える「読み」や「漢字の使い方」の正答率が、全国値を下回り課題であると言えます。

本校では、「努力目標」を「言語力の育成」として、取り組んでおります。国語科を中心に「言語力の育成」に取り組むことで、基礎・基本の力をさらに伸ばし、活用力の土台を築いていきたいと考えています。

話し手の意図を捉えて自分の考えをまとめる（話す・聞く）、目的の意図に応じて内容の中心を明確にして書く（書く）、登場人物の心情について情景描写を基に捉える（読む）、等について理論的思考力を身につけることを目指します。

算 数

●概要

◎算数A（「知識」に関する問題）

児童の平均正答率は、全国値を上回り良好である。

◎算数B（「知識の活用」に関する問題）

児童の平均正答率は、全国値をやや下回っている。

●各領域における成果と課題

「数と計算」

- ◇「1に当たる大きさを求める問題場面」や「十進位取り記数法で表された数の大小」等も全国値を上回り良好である。
- ◆「示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める問題」は、課題がある。

「量と測定」

- ◇「単位あたり量の大きさを求める問題」は、全国値を上回る。
- ◆「知識の活用」の設問は、課題がある。

「図形」

- ◇「合同な三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見出す」設問では、全国値を上回り良好である。
- ◆「図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360度になっていることを記述する」設問は、課題がある。

「数量関係」

- ◇「数量関係」領域の「知識」の設問では、全国値を上回り良好である。
- ◆「メモの情報をグラフと関連づけ、総数や変化に着目していることを解釈し、記述する」設問は、課題がある。

●算数における成果と今後の指導改善点について

A問題「知識」のほとんどの領域で全国値を上回るかほぼ同じであり、基本の力が身に付いていると考えられます。3年生から「少人数及び習熟度別指導」で個に応じた指導を行い、「朝学習」や「パワーアップタイム」で基礎・基本の育成に取り組んできた結果と考えます。

B問題「知識の活用」では全体としては全国値をやや下回っています。「表やグラフなどでいくつかの情報の中から、必要なものを選んで考える」記述式の設問では課題があり、今後も算数的活動を多く取り入れることで、活用力を高めていくことが必要であると考えます。また、「努力目標」で取り組んでいる「言語力の育成」も知識の活用にも効果的であると考えます。これまでの成果を継承し、引き続き、基礎・基本の力を伸ばし、きめ細やかな指導により、活用力を高めていきます。

理 科

●概要

◎理科（「知識」「知識の活用」に関する問題）

児童の平均正答率は、全国値をやや下回っている。

●各領域における成果と課題

「物質・エネルギー」

- ◇「食塩水の蒸発」について、実験結果を通して導き出す結論を正しく書く問題で、全国値を上回る。
- ◆「もののとけ方」の実験道具の操作方法等の習得は、課題がある。

「生命・地球」

- ◇「流れる水のはたらきで、結果を見通して実験を構想する」では、全国値を上回る。
- ◆「ヒトの体のつくりと運動」の科学的な言葉や概念の理解については、課題がある。

●理科における成果と今後の指導改善点について

理科全体では全国平均をやや下回った。

16問中「活用」問題が13問で、「活用」に重点を置いた問題であった。

「活用」問題の内、全国平均を上回った問題が9問、下回ったのが4問。中でも記述式問題の2問で正答率が低いものの、全国平均を上回った。

「知識」では、「関節」等の語句を問う問題で、答えられない、または、表記を間違えているものが多かった。

「活用」することについては、実験と日常生活とを結び付けて身につけることが必要です。

今後はさらに、科学的な言葉や概念、器具の適切な操作方法等を、実験を通して習得することや、複数の情報を関連付けながら、分析・考察する力を身に着けることが、必要であると考えます。また、普段から正しい漢字を使う習慣を着けることも指導していきます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

「生活習慣や学習環境等に関する調査」は、生活習慣、家庭学習、学校生活と多岐に渡るものですが、以下に、全国値との差が大きかったものを中心に挙げておきます。

『自己肯定感・自信』

- ◇「自分には、よいところがあると思う」では、全国値よりも上回る。
- ◆「人の役に立つ人間になりたいと思う」や、「将来の夢を持っている」が全国値をやや下回る。

『学校・学級での活動』

- ◇「学校の宿題をしていますか」はほぼ全国値とほぼ同じ。
- ◆自分で計画を立てて学習し、授業の予習・復習は全国値を下回る。

『規範意識』

- ◆「人の役に立つ人間になりたい」は、全国値を下回る。

『授業』

- ◇「算数の勉強は好き」は、全国値を上回る。
- ◆「自分で考え取り組む」や「考えを発表する機会を工夫する」は、全国値を下回る。

『家庭学習』 『放課後等の過ごし方』

- ◇「学校の宿題をしてる」は、ほぼ全国値と同じ。
- ◆「自分で計画を立てて学習する」、「授業の予習・復習」は全国値を下回る。
- ◆放課後は「家でテレビ・ゲーム・インターネットなどをしている」
週末に「家でテレビ・ゲーム・インターネットなどをしている」が全国値を上回る。

『規則正しい生活習慣』

- ◆毎日「同じ時刻に寝る」「同じ時刻に起きる」は全国値を下回る。
- ◆「朝食を毎日食べる」は全国値を下回る。

『家庭の関わり』

- ◇「家の人と学校での出来事について話す」は、全国値とほぼ同じ。

『地域・社会への関心』

- ◇「地域や大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりする」は、全国値を上回る。
- ◆「地域や社会の問題や出来事への関心」は、全国値を下回る。
- ◆「住んでいる地域の行事に参加している」は、全国値を下回る。

『読書』

- ◆「1日当たりの読書時間」は、全国値を下回る。

3. 今後の取り組み

本校では、「努力目標」を、「言語力の育成」とし、今年で4年目となります。
＜自分の思いを伝え合える子どもを目指して＞をサブテーマにして、国語科を通して、全学年で、研究授業・討議・研修会や、研究発表会を行っています。また朝の「まなびタイム」では、算数・国語・外国語の基礎・基本学習と読書や読み聞かせを全学年で取り組んでいます。算数においては、3年生以上の学年で「少人数及び習熟度別の指導やチームティーチング」を行い、更に毎月実施の「パワーアップタイム」の時間で、基礎的な力を育てています。

日頃からご家庭での協力も頂きながら、上記の取組の成果として、少しずつ良好な結果を得ることができておりますが、国語、算数ともに一部で課題が明らかになり、改善に向けた取組を引き続き行う必要があることを再確認いたしました。

A問題で問われた学習の基礎となる「知識」については、「漢字・計算」を中心として、個に応じた指導のさらなる充実を図り、確かな意味理解を確実に定着するよう指導に努めていく必要があります。そのためには、学校での学習のみならず、家庭学習の担うところが大きく、宿題に加えて**予習・復習の充実**を図るなど、家庭と学校が連携し、自学自習力をつける取組の推進を進めていきます。

B問題で問われた内容は、「読解力、判断力、思考力、表現力」といった「総合的な力」を問うものでした。**理科**についても、実験や観察を通して学習を進める中で、同様の力が必要とされます。全教科・学校生活や日常生活全般を通じて身に付けるものであり、各学年で取り組んでいる「言語力の育成」を中心にして、今後も、学力向上につながる主体的・対話的で深い学びができるよう、取組の充実を図っていきます。

今後とも、温かいご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

<<参考資料>>

国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料」

<http://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/index.html>

吹田市教育委員会「学力・学習状況および体力・運動習慣等調査結果の概要について」

<http://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-gakkyo/shido/76669.html>